



苗名滝で上流の川の様子をみました

○8日の金曜日は関川の学習に行きました。上流、中流、下流の石の大きさや、流れの速さなどが知れてよかったです！上流にあったつり橋は、ゆれて少しこわかったけどとても川がきれいにみえました。と中で雨がふってきて、外で弁当をたべられなくてさみしかったです。そして海の波が高くてとてもびっくりしました。関川の学習をしてたくさんの特ちょうなどが知れてとてもよかったです！

○上流・中流・下流。それぞれのいろいろな特ちょうを知った。石の大きさや丸さ。川はばや水の速さや川ぞこのようす。とても、いろいろな事をメモできた。

桐生 山愛



川の流れの早さをしらべました

○上流では、大きい石がたくさんあったけど、下流に行くにつれて、大きい石が少なくなりました。くわい石が砂になっていて、水の力は、強いことがわかりました。

堀田 涼葉

○上流では、大きい石がたくさんあったけど、下流に行くにつれて、大きい石が少なくなりました。くわい石が砂になっていて、水の力は、強いことがわかりました。

大澤 隼斗



海にそそいでいる関川をしらべました

○今日、学校の見学で川の流れについて行きました。最初に苗名滝に行つてから、大きい川に行つて、海に行きました。くわい石が木とかいっぱいあつていいくわい石をひろいました。とても楽しかったです。

【河川学習】

5年3組学級通信より

○今日、一日中河川学習でした。河川学習では山にある上流から中流にいて最後に下流（海）に行きました。上流では苗名滝に行きました。そこには、大きい石がいっぱいあつたり少し小さい川がありました。中流では雨が少しづつふってきたけどしっかりやりました。小さい石と上流より広い川がありました。下流では海に行きました。海には大きい石と小さい石はありませんでした。石は全部砂になりました。河川学習がすっかりできて良かったです。

大内 忍

## 「発掘ガイド」募集します！

3月末に第20次野尻湖発掘がおこなわれます。「野尻湖のキルサイト（動物の狩り場）の様子を明らかにしよう」というのが大きな目標です。全国各地から子供さんや愛好家・専門家の皆さんがナウマンゾウ発見を目指して、発掘にこられます。

地元の野尻区と信濃町教育委員会、そして野尻湖発掘調査団では、「野尻湖発掘実行委員会」をつくり、受け入れの準備をはじめました。今回の発掘でも、全国から見学に訪れる方がたを、発掘現場の中までご案内いただく「発掘ガイド」を募集します。

この「発掘ガイド」は、見学に訪れるお客さんと研究をされる調査団の人たちとの間をとりもつ重要な係で、地域の皆さまにお願いしたい大切な仕事です。専門の知識がなくても十分つとまります。期間中に発行されるミニコミ紙「野尻湖新聞」を読んで、自分の言葉でお客さんにお話してくださればいいです。直前には、ガイド養成講座（説明会）も行います。

ぜひ、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

【日程】 3月21日(金)～30日(日)

【時間】 午前9:00～11:30 午後13:00～16:00 (30日は午前中まで)

【分担していただく日時】

半日を1コマとして、希望の日程を選んでください。都合がつく方は、できるだけ多くやっていただけるとありがたいです。

【特典】

発掘現場は参加者以外、自由に入れませんが、ガイドの方は特別に入ることができます。野尻湖新聞がもらえます。専門家の方がたとお近づきになることができ、なんでも聞くことができます。野尻湖発掘の最新の成果を知ることができます。

【その他】

申込者には、事前説明会をおこないます。昼・夜の日程で複数回開きますので、都合のいいとき1回(1時間程度)、ご参加願います。(申込者に連絡)

【ガイド申込のしめきり】 3月14日(金) 野尻湖ナウマンゾウ博物館 電話:258-2090 まで  
第20次野尻湖発掘実行委員会

## 博物館のページ



野尻湖 ナウマンゾウ博物館

### 第20次 発掘の準備 すすむ

専門グループの集会

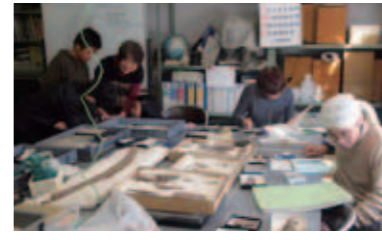
12月末と1月の連休を利用して、野尻湖発掘の専門グループの集会在博物館で開催され、各地の方が研究に集まりました。

人類考古グループは、野尻湖で解体されたナウマンゾウの骨で作られた骨器を調べています。小松屋ホテルのすぐ前のところからは、これまでにナタ状の骨器(クリーヴァー)や作つた時の破片同士がひつづく接合資料が見つかっているから出してきて、他の骨の破片とつながらないかと、調べました。

哺乳類グループは、今年の3月に大崎で見つけたナウマンゾウの臼歯の化石をクリーニングして、6月



大崎で見つけたナウマンゾウの立派な臼歯を調べる哺乳類グループ。



骨器やナウマンゾウの骨のかけらを調べる人類考古グループ。小中高校生も参加。

地質グループと火山灰グループは、

に成果をまとめる準備として、化石の特徴を調べたりしました。久しぶりに未処理の化石が多くあつたので、グループの皆さんは年末と年始の2回も野尻湖に来られました。



野尻湖底の地層の記録をもとに、次の発掘地を決める地質グループ。



火山灰のサンプルを顕微鏡で見て、どの火山かを調べる火山灰グループ。

グループは、大崎の地層の中に含まれる火山灰を顕微鏡で調べて、化石の時代を調べました。また、この3月の第20次発掘はどのあたりを掘るかという議論をおこない、これまでに一番成果が上がっている立が鼻の小松屋さん前あたりの湖底を掘ることを検討しました。検討には、哺乳類グループや人類考古グループの人たちも加わつて、ナウマンゾウや人類の成果が期待できる場所を選びました。

## 学校の裏で 地層の勉強が できました

信濃小中学校6年生

11月8日、信濃小中学校6年生は、理科「大地のつくりと変化」の授業で、鳥居川の河原や学校のすぐ裏のがけで礫や地層を調べました。博物館が協力しました。

☆地層は、下は黒っぽくてその上はオレンジっぽい茶色で、その上は少し茶色っぽい色をしていました。地層つてすごいんだなあと思いました。その地層をさわつてみたら、グニャツとしていてところや、ねんどみたいなところがありました。新しいグランドを作っているところも、黒い土の下に赤土が見えました。こういうのを見ると、とてもワクワクしてきました。世界には、さまざまな昔の人が残していった物がまだはつくつされていらないので、はやく見つかるといいなあと思いました。

渡邊 葉月



がけに登って地層の観察

☆河原の石を割りました。その石の中には、黒いつぶつぶや白いきらきらした物が入っていました。後でそのつぶつぶが宝石みたいなものだと初めて知りました。畑の土は火山灰で信濃町の特産物を作るのに適しているのを知れてよかったです。

青柳 星哉

☆一番おどろいたのは、川は移動をしていて、昔は小学校のある場所も川となつていて、田んぼにも未だその川原の石が埋まっているということでした。

原山 泰成

☆地層を見たら、本当にしもようだった。穴から水が出ていたので、足元がとてもぐちゃぐちゃだった。石を割ってみると、中にけつしようがあり、とてもきれいだつた。

富永 詩織



地層(上)と石の中の結晶(下)のスケッチ  
上:原山綾佳 下左:寺田太一 中:池田佳介 右:井澤佳奈絵